

第1回定例会(3月10日)

■北海道社会貢献賞(交通安全成功労者)の受賞

平成19年度北海道社会貢献賞について、大通の松浦秀齊様が26年間にわたる交通安全功労者として北海道知事より表彰されました。

長年のご功績に対し深く感謝し、栄えある受賞に対し心より敬意を表します。

■成人式

1月13日町内・町外合わせて48名(男性26名・女性22名)の新成人を迎え挙行いたしました。これからの津別町を担

う若者として限りなく大きなパワーを期待します。

■イルミネーションの点灯

以前より友好のある船橋市の船橋ポートライオンズクラブ創設25周年を記念して町に寄贈された寄附金を使わせていただき、街並づくり推進会議、津別建設業協会等の協力を得て、イルミネーションを設置しました。



■高齢者の虐待防止講演

2月2日北海道医療大学教授石川秀也氏を講師にお迎えし「高齢者の虐待防止に向けて」をテーマに開催しました。

今後とも高齢者の虐待を防止し、要介護高齢者やその家族が安心して地域の中で暮らしていけるまちづくりを目指し活動を行ってまいります。

■死亡交通事故ゼロ日運動

平成18年9月28日を起算日として取り組んで参りました死亡交通事故ゼロ日運動は、平成20年2月4日に目標の500日を達成しました。次の目標を70日(達成日)平成20年8

月22日)に向けて全町民とともにこの運動を推進する決意であります。



■「オホーツク流水の日」

2月16日津別バスターミナル横の町民花壇において、町民手づくりのアイスキャンドル約300個を並べて点灯しました。これは流水トラスト運動の一環として、流水が見られるピークである2月の第3日曜日「オホーツク流水の日」と定めたことに協賛し実施したものです。

■災害時における対策協定の締結

2月29日津別建設業協会と「災害時における応急対策業務に関する協定書」を締結しました。この協定を基本に連絡網の整備や各事業所の保有する機械・機材を把握し、効果的・効果的な対応を可能に

しようとするものです。情報を共有しながら、この協力体制を災害時の速やかな対応につなげていきたい。

■日豪EPA交渉における農業分野での適切な国際規律の確立を求める署名

北海道農業の受ける大きな打撃と、関連する産業への影響、農業の衰退など地域の経済・社会の崩壊に繋がりがかねない重要な問題として昨年2月に署名活動を行ったところですが、全国的な世論の喚起を目的として再度署名活動を実施したところ3千481人の方々の署名をいただきました。

■国民健康保険税の賦課誤り資産の共有名義の固定資産について、国保税の世帯主及び被保険者の持ち分に按分して賦課の対象とすべきところを対象としていないことから、厚生労働省から実態の調査と指導の通知がありました。

■国民健康保険税の賦課誤り資産の共有名義の固定資産について、国保税の世帯主及び被保険者の持ち分に按分して賦課の対象とすべきところを対象としていないことから、厚生労働省から実態の調査と指導の通知がありました。

平成19年度予算補正

会計別	今回補正額	予算総額
一般会計	1,819万2千円	46億5,425万2千円
国保会計	△ 1,761万4千円	9億9,446万5千円
介護保険会計	△ 136万8千円	4億5,877万6千円
介護サービス会計	△ 94万4千円	2億7,885万1千円
下水道会計	△ 2,884万7千円	5億8,455万4千円
簡易水道会計	△ 256万9千円	1億2,373万6千円

(△は予算に対する減額を示します。)

補正された主な内容

〈一般会計〉

- 給与費 △ 104万円
- 電算化推進経費 △ 182万円
- 財政調整基金積立金 1,244万円
- 代替輸送確保対策事業基金積立金 1,213万円
- ふるさと定住促進事業費 △ 430万円
- 福祉灯油助成事業経費 107万円
- 町有林整備事業 △ 513万円
- 学校教育施設整備基金積立金 904万円

〈国保会計〉

- 医療費拠出金 △ 1,736万円
- 国民健康保険基金積立金 826万円

〈介護保険会計〉

- ホームヘルパー派遣事業費 △ 67万円

〈下水道会計〉

- 公共下水道施設建設工事委託 △ 2,392万円

〈簡易水道会計〉

- 特別地方債利子 △ 239万円

◎その他報告された事項

- 寄附
- 小学生ソフトテニス大会
- 全道リコーダーコンテストの結果
- カレンダー展示即売会
- 国際交流の状況
- 建設工事等の発注状況

委員会活動

常任委員会 特別委員会

各常任委員会・特別委員会は議会の閉会中も委員会を開催し、所管事務について協議しています。

総務文教常任委員会

第1回（1月30日）

- ・グループ制の導入
- ・旧恩根小学校及び旧上里小学校の処分計画

第2回（2月26日）

- ・津別町課設置条例の一部改正
- ・津別町職員の給与に関する条例の一部改正
- ・津別町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正
- ・津別町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正
- ・津別町防災会議条例の一部改正
- ・財産の処分
- ・津別町新ふるさと定住促進条例の一部改正
- ・津別町公の施設に係る指定管理者の指定
- ・スキーの町宣言の取扱い
- ・平成20年度予算編成の概要
- ・津別町過疎地域自立促進市町村計画（後期）の一部変更

産業福祉常任委員会

第1回（2月29日）

- ・津別町監査委員条例の全部改正
- ・放課後子どもプラン

第2回（3月4日）

- ・津別町後期高齢者の医療に関する条例の制定
- ・津別町国民健康保険条例の一部改正
- ・津別町介護保険条例の一部改正
- ・乳幼児医療費の助成に関する条例の一部改正
- ・重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部改正
- ・津別町国民健康保険人間ドック助成事業の廃止
- ・津別町公の施設の指定管理者の指定
- ・レストハウスの今後の取り扱い
- ・津別町バイオマスタウン事業
- ・津別町酪農ヘルパー事業への支援
- ・住生活基本計画（住宅マスタープラン）の策定
- ・津別町公園条例の一部改正

議会運営委員会

第1回（3月4日）

- ・津別町個別排水処理事業受益者分担金条例の一部改正
- ・平成20年度予算編成の概要

第2回（3月13日）

- ・第1回定例会の運営
- ・意見書等の取り扱い
- ・各種委員の推薦

第3回（3月17日）

- ・第1回定例会の運営

議会広報特別委員会

第14回（4月17日）

- ・議会報123号の編集について

議会日誌

1月

30日 総務文教常任委員会

2月

25日 管内町村議会議長会定期総会
(上湧別町)

26日 総務文教常任委員会

29日 産業福祉常任委員会

3月

4日 議会運営委員会

13日 議会運営委員会

17日 議会運営委員会

10~19日 第1回津別町議会定例会

4月

17日 議会広報特別委員会

保険業法の制度と運用を見直し、自主的な 共済の保険業法の適用除外を求める意見書

【要旨】保険業法の改正によって、各非営利団体が自主的かつ健全に運営してきた共済制度が存続の危機に追い込まれています。改正の趣旨は、共済の名を利用して不特定多数の消費者に保険商品を販売し消費者被害をもたらした、いわゆる「マルチ共済」を規制し、消費者を保護することにあり、相互扶助を目的につくられ、その構成員同士の助け合いを目的に健全に運営されてきた自主共済は、「利益」を追求する保険業とは異なるものです。

自主共済を「儲け」を追求する保険会社と一律に規制することになれば、多くの自主共済の存続が不可能となり、「契約者保護」、「消費者保護」を目的とした法改正の趣旨にも反することになります。

よって、次の事項を見直すよう強く要望します。

記

1. 構成員のために自主的かつ健全に運営している共済を保険業法の適用から除外すること。(以下、省略)

◆提出先 内閣総理大臣、金融担当大臣、金融庁長官

意見書

関係行政庁へ
提出しました

「道路の中期計画」の推進に関する意見書

【要旨】現在、国は、平成20年度以降10年間の道路整備の中期計画を策定中で、その中で高規格幹線道路について早期にネットワークとして機能させるほか、冬期交通環境を考慮した道路整備や除排雪など道路の管理、防災・防雪対策などの適切な維持管理の実施などが盛り込まれ、その必要額が示されたところです。

北海道は、高規格幹線道路などのネットワーク形成をはじめ、防災対策や救急医療など生活道路の確保など整備は不十分であるほか、除雪などの維持管理業務や、今後老朽化を迎える橋梁などの維持更新費用の増大が見込まれています。

このような中、道内地方公共団体は、毎年、道路整備のための財源のほか多くの一般財源を投入し、道路の整備や維持管理を行っています。

このことから、その必要額が確保され中期計画が着実に推進されるよう要望します。

記

1. 道路整備のための安定的かつ確実な道路整備のための財源を確保すること。
2. 道路整備や維持管理を行うにあたっては、地方への配分割合を高めること等により、地方における道路整備財源の充実に努めること。(以下、省略)

◆提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、
総務大臣、財務大臣、国土交通大臣

町のホームページに下記内容の議会情報を 掲載していますので、ご覧になってください。

内 容

議会のしくみ・運営・役割/議会構成/議員
紹介/議会報つべつ/議決結果/開催日程/
請願・陳情のしかた/傍聴のご案内

<http://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/>

はぐるま 一歯車一

中国産冷凍ギョーザに薬物が混入していた事件ではわが国の輸入食品の検査体制の貧弱さと、自給率の低さが明るみに出た。外国産の食料は国産に比べ安く、季節外れの野菜にもつい手が伸びてしまいがちだが、ろくに検査もされずに店頭に並べられていると思ってもよらなかった。値段の安さや手軽さから学校給食や家庭でも広く利用されているが残留農薬などが検査されてこなかったとなれば、将来子供たちの体にどんな悪さをするのが心配だ。食料の60%が外国から輸入されているのだから、国の責任で税関の検査を厳しく行ってほしい。もう一方で、自給率を上げるため農業が立ち行くよう価格保障など手厚くし、生産性を高めてもらいたい。輸出国の事情の変化から「金で買えばよい」時代は終わりつつある。われわれ消費者は食料を供給してくれる農業を応援し、地域の将来も考えなければならぬ。燃料を大量に使って外国から輸入される食品をできるだけ食べないよう努力するにとだ。

(茂呂竹)